



No.8 / January, 2008

# とつきの丘だより

竹村内科・腎クリニック通信

〒322-0029 栃木県鹿沼市西茂呂 4-46-3

Phone; 0289-60-7577 Fax; 0289-60-7578 URL: <http://take2002.on.arena.ne.jp>

外来診療編

## 血管硬くないですか

日本人の死因のトップは、ガン・脳卒中・心臓病ですが、脳卒中と心臓病は動脈硬化が原因です。血管が硬くなって大切な内臓の血流が悪くなることです。加齢・高血圧・糖尿病・コレステロール・タバコなどで悪化します。血管の硬さを測るために、心臓から送り出された血液による血管の振動（脈波といいますが）の伝わる速さを測定します。当院では、colin社製の「form（フォルム）」という器機を使用します。この検査の原理は、動脈硬化があると、その脈波がより速く伝わるようになることを利用したものです。検査の方法は簡単で、手足の血圧と心電図などを同時に測って、振動の伝わる速さを割り出します。血管の硬さだけでなく、動脈の詰まり具合も簡単に評価できます。検査の所要時間は10分ほどです。高血圧・糖尿病・腎不全など動脈硬化の進みやすい病気のある方は検査をお勧めします。検査結果は内科医師が親切に解



説して治療に役立てます。予約制ですが、お気軽にご相談下さい。

## 外来予約制について

当院の外来診察予約システムは、9時頃から30分単位の枠内で4名の予約患者様を予定し、その枠内では、来院時刻の早い順に診察を行なっています。例えば、同じ「10時」予約でも、来院時間順番によって診察が遅れてしまう可能性があります。予約外の方の場合は、同じ時間帯で予約のある方を優先しますので、待ち時間が長くなる事があります。また、予約のある方の場合も、当日の診察の流れや新患の集中などによって、待ち時間がさらに長くなる場合があります。特に具合の悪い方の場合は、予約と関係なく優先的に診察を行ないますので、受付までお申し付け下さい。外来及び透析診療を医師3名で全力で行なっておりますが、なにぶんにも追いつかぬありさまで、皆様には予想外のご迷惑をおかけしておりますことをお詫びします。

## 木もれ陽

クリニックの南側に隣接して増築工事を行っています。2階部分は19床の一般入院病棟で、2月25日オープン予定です。1階は「介護ステーションたけむら」を新規開業します。意外なことに、医療機関に併設される介護施設は、県内では初めてです。お医者さんが隣にいる施設は安心ですね！3月9日に地域住民説明会、13日に無料体験デイ、17日に開業予定です。ショートステイ（30床、短期間の入所）、デイサービス（25床、日帰り）、居宅介護支援の3本柱からなります。開業準備に大忙しですが、憩いのスペースやゆったりしたお風呂など、お楽しみがいっぱい！腎不全の方を含めて、地域高齢者介護に貢献したいと思います。詳細は別途案内予定です。

ウラも見てね



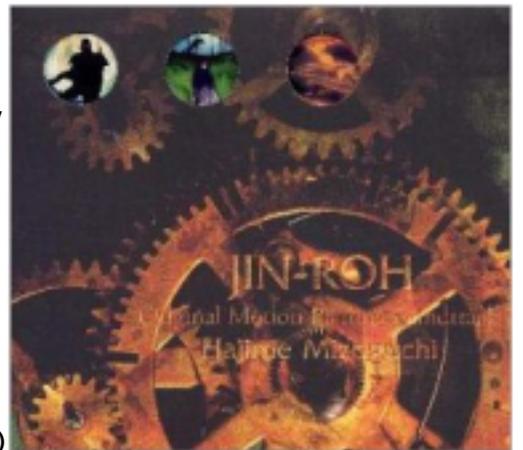
# さつき シアター

DVD 「人狼JIN-ROH」押井守

Bandai Visual 2002:B00005V1D6

原作・脚本は「甲殻機動隊」「イノセンス」「BLOOD」「めざめの方舟」などの作品で、世界的に高い評価を得ている押井守。舞台は第2次世界大戦終結の十数年後、高度経済成長期にあり、民衆運動と機動隊の衝突が繰り返される昭和の日本。国家権力の最前線に立つ特殊機動隊の青年と、彼らと対立する立場にある都市ゲリラの女性テロリストの、交流の物語だ。獣としての宿命を背負いつつ獣にはなりたくなかった孤独な主人公、伏一貴。叶わぬと知りつつ許されぬ愛を夢見た、雨宮圭。二人の運命の出会いと別れを、公安警察を巻き込んだ凄絶な諜報戦のなかに描いている。国内上映に先行したフランス公開では、日本映画として異例のロングランを記録。ベルリン国際映画祭では審査員特別賞を受賞している。ハリウッド的な快樂原則には完全に背を向けた、鮮烈な映像表現の世界を達成した。アニメーション芸術の最高水準を示した作品

といえるだろう。バイオレンス・シーンは子供には注意が必要だ(R15指定)。さらに特筆すべきなのはサントラ。孤高のチェロ奏者、溝口肇が担当している。ラフマニノフのコンチェルトを思わせる重厚な通奏低音に、エニグマ、もしくはドイツ・プログレッシブロック界の伝説的ユニット、タンジェリン・ドリームのリズムを併せ持った構成、とでも言おうか。日本のサントラ・スコアの歴史に燦然と輝く傑作となっている。辛口の批評の多いアマゾン・レビューでも絶賛され、アルバムは星5つを獲得している。(ビクターエンタテインメント B0000419M1)



## 医学のピア

英国EMI社は小規模な電器会社だったが、そのレコード部門に所属するビートルズによって莫大な利益を得た。その一部を社会還元するために開発費を投じて生まれたのがCTスキャンである。1975年には日本最初のCTスキャンが東京女子医大に設置された。輸入は東芝が行い、当初はエミ(EMI)スキャンと呼ばれた。その後英国EMI社は1979年にCTスキャン事業から撤退した。CTスキャン発明

者のSir Godfrey N. Hounsfieldは20歳で空軍に入りレーダー開発を担当、その後アラデー・ハウス電気工学専門学校を32歳で卒業して、EMI社の技術者となった。もう一人の開発者であるDr. Allan M. Cormackとともに1979年のノーベル医学生理学賞を受賞している。つまり、田中耕一さんと同様、学位をもっていないノーベル賞受賞者なんですね...。ちなみに、当院のCT撮影装置は東芝製の最新機種(マルチスライス・ヘリカルCT, Asteion=アステイオン)です。<<http://www.m3.com/>>

**CTはビートルズの利益で開発された。**



では雨にもかかわらず、歌や楽器があちこちで演奏されていました。参加ランナー2万7千人、沿道の観客はそれ以上という大興奮

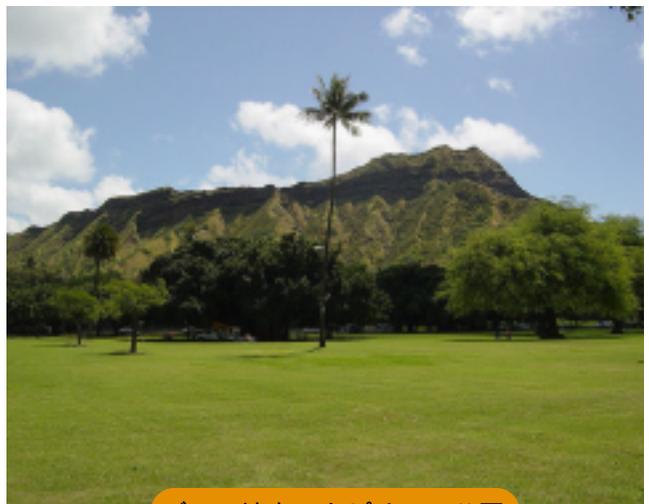
毎年ハワイで開催されるホノルルマラソンは、12月の第2日曜日に開催され、今回で連続3回目の参加になります。マラソン参加3回目となると、42.195kmという長い距離に対する不安や恐怖も少し薄れてきて、目標が「無事完走すること」から「4時間を切って走りたい」という記録挑戦へと欲深くなってきました。というのも、一般マラソンランナーにとって、マラソンを4時間以内で走ることが「サブ4(フォー)ランナー」といって、一人前の証(あかし)だからです。

今回は何とか4時間を切って走りたいと思い、3ヶ月前から毎週日曜日、鹿沼のクリニックから息子が通学している宇都宮の作新中学校までの往復約22kmを走ることにしました。毎週走るうちに、本院の技師・事務部の若手スタッフ達も交代でランニングに付き合ってくれるようになりました。寒い朝6:30にクリニックに集合し、バテバテになりながらも一緒に走ってくれて、とてもありがたく感じました。大会直前4週間前には矢板ハーフマラソンに出場し、雨の中1時間45分と自己最高タイムで走りきりましたが、調子に乗って大会直前2週間前にも、宇都宮ハーフマラソンに出場したところ、逆に疲れて歩いてしまい、2時間5分と過去最低タイムを出してしまいました。このようにして、この3ヶ月間、月間約150から200km走りこみました。

毎回ホノルルマラソンに参加するいつもの4人の仲間と共に、大会2日前にホノルルに到着しました。例年とは違い台風のような雨が連日続きました。大会当日のスタート時刻はまだ真っ暗な早朝5時、雨の中のスタートでした。それでも花火が打ちあげられ、沿道

奮の渦の中で、スタートラインに立ちました。あまりに多くのランナーに囲まれ、移動することもできません。一緒に参加した仲間と「がんばるぞ!」とお互いハイタッチをして、長い長い42.195kmのスタートをきりました。

スタートしてから約2時間後、雨もやんで周囲が明るくなりはじめ、海が見えるようになりました。いつもならダイヤモンドヘッドから見下ろした、すばらしいハワイの海の景色を眺める余裕がまだあるのですが、脚の筋肉より体の芯が疲れてしまって、景色を眺めている余裕がありませんでした。30kmまでは2時間56分と、まあまあペースで走っていましたが、ラストの11km時点で、走る気力が急激に萎えて、歩き始めてしまいました。「あともう11kmじゃないか・・・」毎週走っていた作新中学とクリニック往復のちょうど半分の長さです。いつもなら楽しく走って帰れる距離です。歩きながら、いままで練習に付き合ってくれたスタッフの顔が思い浮かびました。「こんなに練習したのに・・・、みんな応援してくれていたのに・・・」悔しいのと、情けないのとで涙が止まりませんでした。また雨が降ってきて、全身を濡らしてい



ゴール地点：カピオラニ公園

きました。前回までは、沿道の応援にとても元気づけられていましたが、今回は周囲の応援も聞こえず、何も見えませんでした。スタートしてから4時間27分、ふらふらになってなんとかゴールしました。

一緒に走った仲間が私を出迎えてくれました。「お疲れさま。ところで、今日は調子悪かったの？」と声をかける仲間は皆、4時間を切ってゴールしていました。彼らの満足したすがすがしい顔を見てみると、うらやましいと同時に悔しくてたまりませんでした。疲れ切っていて、なんのリアクションも出来ません。ただただ「やっと完走できた。とりあえず4時間半は切れた。死ななくてよかった」と思い、「ハーッ」とため息をつくだけでした。ゴールして1時間後、ホテルに帰りシャワーを浴びたあとで、突然目の前の景色が白黒に変わってしまいました。「どうしたんだらう？目がおかしくなったのかな？」と思い、なんとなくふらついたので、ベッドに横になって自分の脈を確かめました。脈が遅く、かすかに触れる感じでした。同室の石塚君に「となりの部屋の三橋を呼んでくれ」と頼みました。三橋君は私の高校時代からの同級生で、僕のマラソンのきっかけを作ってく

れた大親友です。現在は自治医大・循環器内科の准教授をしています。彼が僕の脈を診て、「ワゴトニーだから、しばらく横になっていれば大丈夫だよ」と診察してくれました（ワゴトニー：極度の緊張や興奮、長時間の起立などによって迷走神経が緊張し、徐脈や血圧低下をおこすこと）。少し不安な気持ちとボーッとした意識の中で、信賴している友人の言葉は、なんとも心強く、とても安堵感を得られました。1時間後には元気に復活し、そのあとみんなでハワイ島に出発しました。私は正月に箱根駅伝をテレビでずっと見続けました。そして無念にもリタイアした選手に涙しました。そこには約20kmを走るため毎日過酷な練習をしているはずの青年達が、本番で走れ切れない現実がありました。今回のホノルルマラソンの経験として、マラソン記録の挑戦には体と練習量の調整がいかに大事かを思い知らされました。今年こそサブフォーランナーを目指して挑戦したいと思っています。

成績： 4時間 27分 57秒          3185位

（参加者2万7829人：完走者2万0850人）

2006年 4時間07分48秒    2440位 / 24593人

2005年 4時間35分32秒    5098位 / 24271人

